

災害対応力の強化

多発する自然災害から、地域と暮らしを守り抜く

橋梁の耐震補強

地震発生時、人命救助・被災地の復旧のためには、高速道路が緊急輸送路としての機能を速やかに確保することが重要です。2016年発生の熊本地震で得た教訓を生かし、災害時に速やかに機能回復できる道路とすべく、耐震補強対策を進めています。



九州道を横架する県道の府領第一橋



高知道 大豊IC～南国IC 入野橋



高松道 三豊島坂IC～さぬき豊中IC 高瀬川橋

橋としての機能を速やかに回復させるための耐震対策（橋脚補強）

66%で対策済み
(2022年度末時点)

耐震補強推進中

落橋・倒壊を防ぐ耐震対策

100%完了

当社管内全6,466橋（15m以上の橋梁）

耐震対策の概要

橋脚補強

大きな地震力に対し橋脚を補強することで変形・破壊を抑制します。



支承取替

地震エネルギーを吸収し、構造系に作用する力を低減します。



落橋防止

想定を超える変位・変形が橋に生じた場合、落橋という不測の事態を防止します。



高知道 新宮IC～大豊IC 久保ヶ内橋



大分道 湯布院IC～日出IC 福万川橋



中国道 北房IC～新見IC 下布瀬橋

さらなる推進に向けて

- ①耐震補強工事の入札不調対策、新技術の採用等の取り組みとともに、組織体制の強化により、耐震補強対策を加速化
- ②上下線の橋脚が分離している橋梁では、どちらか一方の橋脚補強を優先するなどの手法を採用

高速道路の耐震補強実施計画
(2024年1月公表)



地震被災地への支援
×
高速道路会社

2024年1月1日に発生した能登半島地震への支援として、NEXCO中日本・NEXCO東日本との協力のもと、計42台のトイレカーを派遣しました。また、当社グループからの義援金1,137万円と当社グループの役員・社員からの義援金1,130万円を日本赤十字社に寄付いたしました。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



トイレカーを派遣（輪島市輪島中学校）

NEXCO西日本グループの災害対応タイムライン

通常期

構造物の強化による被害予防

- ☑ 橋梁の耐震補強
- ☑ 津波一時避難場所の整備
- ☑ のり面排水機能の強化



徳島南部道本線横の津波避難場所（赤枠内）

降雨災害時ののり面被害は、排水構造物が直接関与した崩壊が約半数を占め、さらに、その約半数が縦溝や集水ます等の合流部で発生。これらを踏まえ、高速道路リニューアルプロジェクト(P.15-16)の中で、のり面の排水構造物の大規模修繕に取り組んでいます。



強化後の縦溝と集水ます

災害対応訓練

交通機能確保等の社会的役割を果たすため、防災業務計画の整備や防災訓練等、グループ一丸となって、関係機関と連携し、ソフト面の災害対応力を強化しています。



グループ会社や関係機関との合同による段差復旧訓練

- ・大規模災害発生時における相互協力に関する協定（自治体）
- ・津波緊急避難における高速道路敷地の一時使用に関する協定（自治体）
- ・災害時の相互連携に向けた協定（電力会社）
- ・災害時における社員等の宿泊施設確保等の協力に関する協定（旅行会社）
- ・災害時における総合通信局との相互連携に関する協定（総務省各総合通信局） など

連携協定



季節前の準備



降雨出水期前の防災会議



資器材の準備

過去の災害経験の継承

熊本地震や平成30年7月豪雨等、過去の甚大な被災・復旧経験を次世代へ継承する勉強会を開催



気象予測等に応じて防災体制を構築強化

お客さまへの情報発信

事前通行止め等による被害抑制

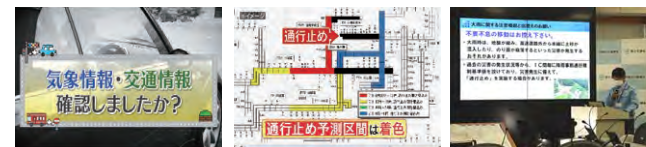
2023年7月10日に発生した大雨による土石流被害
大分道 朝倉IC～杷木IC 高山トンネル



西坑口



東坑口



テレビCMやウェブサイト、X（旧Twitter）、関係機関との合同記者会見等による情報発信

速やかな安全確認と被害把握



ドローンを活用した現地状況確認

災害が予見される場合

災害発生

応急復旧

緊急交通路として速やかに機能回復

本復旧

Voice

一刻も早く、通行止めの解除を

大分道の高山トンネルは、土石流で上下線全ての坑口が塞がれました。周辺地域の被災地へ向かう「命の道」として救助救援ルートを早期に確保すべく、関係者が一丸となって24時間体制で復旧にあたり、上り線を使った対面通行により発災から5日で通行止めを解除することができました。いざという時に備えた日頃の連携が活かされ、結束力を発揮できたと思います。



実際の復旧対応時の様子

九州支社 久留米高速道路事務所 保全計画第一課 三村 満咲